

# YELL

メール  
第15号

那須教育事務所ふれあい学習課  
〒321-0056 栃木県大田原市中央1-9-9  
Tel:0287(23)2177 FAX:0287(23)2193  
Mail:nasu-kyouiku@pref.tochigi.lg.jp

Vol. 15 平成24年1月

## ステップアップ研修のまとめ ①

新しい年が明けて、1か月が過ぎようとしています。今年は辰年。竜にあやかり、飛竜乗雲のごとくふれあい学習を推進してまいりたいと思います。くれぐれも竜頭蛇尾にならないよう・・・。

さて、大変遅くなりましたが、今号と次号の2回にわたって、昨年11月に行われました那須地区社会教育主事有資格者ステップアップ研修兼地域教育コーディネーター養成研修について御報告します。研修当日は、社会教育主事有資格教員47名、公民館職員等11名の参加がありました。内容は、宇都宮大学の廣瀬隆人先生による「学校と地域社会のコーディネートについて」と題した講話及び演習でした。

講話の中で廣瀬先生は、学校と家庭・地域の連携がなぜ必要なのかについて、「学校を取り巻く様々な問題は、学校のみで完結するものではなく、家庭や地域が教育の責任を担い、子どもたちを健全育成するためにも、学校支援ボランティアの導入が必要である。」と力強く語りかけていました。その後行われた演習では「学校で支援して欲しいこと」をテーマに、グループごとに情報を交換しました(別紙参照)。

多数出された意見を分類すると、授業に関する支援が全体の半数以上となっており、その内、家庭科や図画工作・体育等の実技系の教科での支援を希望する意見が8割以上を占めていました。例を挙げると「家庭科のミシン実習の時、安全への配慮から1台に1人ずつボランティアをお願いしたい。」「水泳

指導の際、グループごとのタイムの計測をして欲しい。」などの意見が出ていました。実技系教科の支援の要望は、「個人への支援・対応」と「安全面への配慮」の2つに分けられることも分かりました。

次に多かったのが総合的な学習の時間の支援で、「専門知識をもった方に講師になってもらいたい。」や「校外学習の引率をお願いしたい。」という意見が同数程度ありました。

全体的な傾向として、小学校は多くの教科でボランティアの要望がありましたが、中学校では少なく、より専門的な知識や技能をもったボランティアを求める傾向があることも分かりました。

次号では、授業以外の内容について出た意見の傾向を掲載する予定です。



廣瀬先生の講義は説得力があり、参加者はうなずきながら聞き入っていました。



### information

#### 那須地区ふれあい学習ネットワーク兼地域教育コーディネーター養成研修のお知らせ

日時 平成24年2月5日(日)13:30～  
会場 那須塩原市三島ホール・公民館  
テーマ 地域のつながりって何?  
～絆(きずな)づくりの第一歩～

内容 寸劇・分科会・シンポジウムの三部構成で、地域の絆(きずな)を強くするためのヒントが得られます。

**ぜひ御参加ください。当日申込みもできます。**